

プロジェクト報告書の学校HP公開（報告書の見方）

令和7年度 未来を拓く生徒主体の授業づくりプロジェクト計画書(報告書)				
学校番号	学校名	●●高校	全・定・通	在籍生徒数
スクールポリシー (学力に関するもの)	各校で育成を目指す資質・能力に関する方針です。			
グランドキュレーション ポリシー	生徒の卒業後の姿を見据えて、生徒にどのような資質・能力を育成することを目指すのかを定める方針です。			
生徒主体の授業への転換のための取組テーマ				
自ら自己調整しながら学習を進めていくことができる自立した学習者づくり				
目標の実現に向けて生徒が自己選択や自己決定を行う機会創出				
主体的・対話的で深い学びの視点による授業と評価の改善				
ICTの活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実				
文理の枠を超えた教科横断的・総合的な探究課題への取組				
具体的な取組				
生徒主体の授業への転換のための取組テーマをふまえた具体的な取組です。				
「生徒主体の授業への転換のためのアンケート」高評価数値の推移(%)				
(各校の授業アンケートに基づき)			R7中間	R7末
1. 自ら学習課題や学習方法を選択して自主的、自発的に学習に取り組むことができた。(①強くそう思う、②そう思う)				
2. 科目や探究など、学んだことを別の場面でも活用しやすくなった。(①強くそう思う、②そう思う)				
3. 授業や単元の終りに目標を確認することができた。(①強くそう思う、②そう思う)				
4. 授業や単元の終わりに目標の達成度を自己評価することができた。(①強くそう思う、②そう思う)				
5. 授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた。(①強くそう思う、②そう思う)				
6. 授業の中で課題解決に向けて自分から取り組んでいる。(①強くそう思う、②そう思う)				
7. 授業の中で各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行った。(①強くそう思う、②そう思う)				
8. 他の生徒と話し合う活動を通して、自分の考えを求めたり、新たな考えに気付いたりすることができた。(①強くそう思う、②そう思う)				
9. 学習した内容について、分かった点や、気になった点を見直し、次の学習につなげることができた。(①強くそう思う、②そう思う)				
生徒アンケート結果の3年平均値です。				
総合評価(学校としての今年度の成果と次年度の取組を含む)				

各教科の取組	※左欄の取組テーマの実践を通して各教科の資質・能力を育成する。		
教科	生徒が身に付ける資質・能力	中間評価	年度末評価
国語		3.8	4.2
英語			
数学			
理科			
芸術			
家庭			
保健			
情報			
保健			

教育目標や育てたい生徒像をふまえ、学習指導要領の理念とスクールポリシーに基づき、生徒の特性等を踏まえて、教科等の指導において育成する資質・能力を定めています。

生徒による達成度の5段階評価のアンケート結果です。年度の中間と年度末の2回実施し、その変化を見取ります。そしてこの数値を一つの材料として、授業担当の先生方の評価をふまえて、生徒の学習改善や教師の指導改善にいかすことに活用しています。目標や取組は学校ごとに異なるため、他校の数値との単純な比較はできません。

令和7年度 未来を拓く生徒主体の授業づくりプロジェクト計画書(報告書)

学校番号	18	学校名	山梨高等学校	全・定・通	全	在籍生徒数	399	名
スクールポリシー (学力に関するもの)		基礎・基本の定着の徹底と活用を図り、確実な学力を図ります。						
グラデュエーション ポリシー		1 学びの本質に迫り、自ら考え、判断し、表現できる生徒を育成します。 2 誇りと気概を持ち、自他を敬愛する豊かな心を持つ生徒を育成します。 3 生命や人権を尊重し、心身共にたくましい生徒を育成します。 4 主権者として意欲的に社会参画していく生徒を育成します。 5 英理総合コースでは、国際社会や様々な分野で活躍できるリーダーを育成します。						

生徒主体の授業への転換のための取組テーマ	
<input type="checkbox"/>	自ら自己調整をしながら学習を進めていくことができる自立した学習者づくり
<input type="checkbox"/>	目標の実現に向けて生徒が自己選択や自己決定を行う機会の創出
<input type="checkbox"/>	主体的・対話的で深い学びの視点による授業と評価の改善
<input type="checkbox"/>	ICTの利活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
<input type="checkbox"/>	文理の枠を越えた教科横断的・総合的な探究課題への取組

具体的な取組	
<input type="checkbox"/>	生徒は単元目標を確認した上で各授業に臨み、確実な振り返りの機会を通して学習内容の定着を図る。
<input type="checkbox"/>	教員は先進の事例等からICTの効果的活用法について理解を深めて授業で実践するとともに、家庭学習での定期的な活用を計画的に推進する。
<input type="checkbox"/>	教科内および教科間での相互授業参観を実施し、アンケート調査によって検証しながら継続的な授業改善を行う。

「生徒主体の授業への転換のためのアンケート」高評価数値の推移(%)	R7中間	R7末
(各校の授業アンケートに基づく)		
1.自ら学習課題や学習方法を選択して自主的、自発的に学習に取り組むことができた (①強くそう思う, ②そう思う)	78.6%	78.9%
2.任用や探究など、学んだことを別の場面で使うようにすることができた (①強くそう思う, ②そう思う)	87.9%	86.6%
3.授業や単元の始まりに目標を確認することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	90.6%	90.0%
4.授業や単元の終わりに目標の達成度を自己評価することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	83.0%	85.5%
5.授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	85.8%	92.3%
6.授業の中で課題解決に向けて自分から取り組んでいる (①強くそう思う, ②そう思う)	76.1%	76.4%
7.授業の中で各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行った (①強くそう思う, ②そう思う)	76.4%	77.7%
8.他の生徒と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができた (①強くそう思う, ②そう思う)	93.5%	93.4%
9.学習した内容について、分かった点や、分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができた (①強くそう思う, ②そう思う)	85.8%	87.2%

総合評価(学校としての今年度の成果と次年度の取組を含む)	
<p>全体的に授業への参加状況は良好であり、教科担任から与えられた課題や指示された内容には真面目に取り組み、協働的な活動にも積極的に参加する様子が見え始める一方、自主的、自発的に学習に臨む姿勢の弱さが課題と考えられる。また高水準の自己評価と比較すると、各教科の基礎学力や思考・判断・表現の各領域において、到達してほしいと考えるレベルから隔たりの大きい教科・科目が少なくない。具体的な学習方法を明確に示した上で、ICT機器の活用や個に応じた適切な支援や助言などを取り入れて、主体的に学習に取り組む生徒の育成を一層推進していきたい。</p>	

各教科の取組	※左欄の取組テーマの実践を通して各教科の資質・能力を育成する。			
教科	生徒が身に付ける資質・能力	中間評価	年度末評価	課題解決のための次年度の取組
国語	社会生活の中で必要な漢字力・語彙力を基礎とした国語の知識や技能を幅広く身に付けている。	4.3	4.3	教材を通して身に付けた語彙・知識を日常生活で使用することで、国語力の向上が言葉による考え方や伝え方の変化に繋がることが実感させる。
	立場の異なる他者の考えを読み取ったり聞き取ったり類推したりして、自分の考えを論理的にまとめ、相手や状況にふさわしい伝え方を工夫し、的確に表現する能力を身に付けている。	4.3	4.3	論点を明らかにし、自らの意見をまとめたりグループでの話し合いを行ったりする機会を増やし、その都度自らの取り組みを振り返り、改善点を次回に活かせるようにする。
	言語や文化の背景、また伝統とその変遷に関する理解を深め、多様な書籍や新聞に親しみ、社会と主体的に関わろうとしている。	4.3	4.3	時代を問わずさまざまな種類の文章・作品に触れる機会を作り、時には作品を創作することで、言葉による表現の多様性に気づかせ、興味関心を高める。
地公	歴史の枠組みと歴史的事象の意義や特色などを多角的に考察したり、歴史的に見られる課題を把握し、その解決方法について考察したりしている。	4.3	4.4	歴史に関する基本的な知識を定着させ、その知識を活用して現代社会の諸課題について考察する視点を身に付けられるようにする。
	政治、経済、倫理などに関わる現代の諸課題について理解し、その解決に向けて公正に判断したり、議論したりする力を身に付けている。	4.4	4.4	学習内容を社会事象と結び付けて考えるとともに、社会課題を自分自身の問題として捉え、解決策について考察を深められるようにする。
	地理に関する事象の意味や特色、および相互の関連を多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力を身に付けている。	4.3	4.5	学習内容と実生活とのかかわりに気付かせ、身に付けた知識や探究活動の成果を、防災など地理的課題の解決に繋げられるようにする。
数学	数学における基本的な概念や原理、法則を体系的に理解するとともに、数学的に表現・処理する技能を身に付けている。	4.2	4.3	各分野における原理や法則のつながりを理解し、数学的な処理を行うことができるようにする。
	事象を論理的に考察し、数学的な表現を用いて事象を簡潔かつ的確に表現しようとしている。	4.1	4.2	数学的な表現や処理を実践し、事象を正確に表現できるようにする。
	数学のよさを認識して積極的に数学を活用しようとする態度を養い、問題解決の過程を振り返って考察を深めようとする創造性を身に付けている。	4	4.2	日常生活の中で数学が活かされている場面を理解し、数学の魅力を認識する。
理科	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	4	4.2	より多くの観察・実験を導入し、必要な技能を習得する機会を増やしていく。その上で、知識の定着や思考力の育成に繋げたい。
	理科で学んだ内容を日常生活や社会と関連付けて考えるとともに、環境に配慮し、持続可能な社会を実現させるための思考力を身に付けている。	4.1	4.1	授業の中で得た知識を社会全体に広げて考えられるよう、適切な問いや調べ学習などの探究活動を授業に取り込んでいく。
	理科の内容に興味関心を持ち、身の回りの事物・現象について科学的に探究しようとしている。	4.1	4.2	身近にある自然界での現象に着目し、より積極的にその現象をとらえ、探究する機会を増やしていく。
英語	外国語について理解を深めるとともに、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。	4.1	4.3	母国語とは異なる文法体系であることを考慮に入れ、習得した知識が必ず実際のコミュニケーションで活用できるような学びにする
	日常的・社会的な話題における情報や考えの概要、話し手や書き手の意図などについて外国語で的確に理解し、これらを活用して表現したり伝え合ったりしようとしている。	4.1	4.4	英語による情報を読み取り、聞き取り、内容を把握した上でそれについての自分の考えを話したり書いたりしながら、表現できる活動を多く取り入れる。
	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手、聞き手、読み手、書き手に配慮しながら、外国語を使ってコミュニケーションを図ろうとしている。	4.3	4.4	ALTとの良好な関係を継続するとともに、姉妹校交流により相互の理解を深め、それぞれの文化を尊重するような活動を行う。
芸術	芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けている。	4.5	4.8	芸術を通して自己を表現するための基礎的な技術を身につけられるよう初期の段階で実技の機会を増やす。
	創造的な表現を工夫したり、芸術の魅力や美しさを深く味わったりしようとしている。	4.2	4.5	創作活動を単元ごとに行い、創造的な表現を身につける機会を増やしていく。
	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、豊かな感性と情操を身に付けている。	4.6	4.5	創作活動を通して、様々な作品を鑑賞する機会を設けることで豊かな感性を育てる活動を行う。
家庭	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、生活を主体的に営むための技能を身に付けている。	4.4	4.7	日常生活に密着した衣生活や食生活分野を中心により多くの実習を行い、家庭での再現を奨励することで知識と技術の定着を促したい。
	生活の中から課題を設定して解決策を構想し、実践を通して考察した根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決しようとしている。	4.2	4.7	長期休業期間を活用して、実生活における課題の発見と解決について思考・検討する機会を設定する。
	よりよい社会の構築に向けて、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとしている。	4.2	4.6	一人ひとりが身の回りの生活への関心を深めるとともに、社会全体に目を向けて改善を要する現象や事柄を共有できる協働の機会を取り入れる。
保体	社会生活における健康・安全について理解するとともに、各種の運動の特性に応じた技能を身に付けている。	4.5	4.7	生涯スポーツを意識して自ら継続的に取り組んでいけるよう、多様な競技・種目における技能の習得に重点を置く。
	運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考して判断するとともに、他者に伝えようとしている。	4.4	4.5	運動を通して他者との積極的な関わり合いの機会を増やし、場面に応じた適切な判断と行動ができるようにする。
	生涯にわたって継続して運動に親しむとともに、健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく活力ある生活を営む態度を身に付けている。	4.6	4.6	ICT機器の適切な利活用により、運動することの重要性と自身の健康の維持向上への関心意欲の向上を図る。
情報	情報および情報技術を活用するための知識と技能を習得し、情報に関する科学的な見方や考え方を身に付けている。	4.3	4.4	日々進化する情報技術を適切に活用できる知識を身につけさせる。
	社会の中で情報および情報技術が果たしている役割とその影響について理解しようとしている。	4.3	4.4	社会の中で情報技術が果たしている役割を具体的に示し、実際の体験を通してその効用を理解する。
	情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を身に付けている。	4.5	4.5	情報化の進展の身近な例を挙げた上で、それを適切に利活用できる技術の習得を推進する。
総探	課題の発見と解決に必要な知識や技能を身に付け、様々な場面で自律的に探究を進めようとしている。	4.5	4.6	社会または自己の中にある課題によりよく気づけるような工夫をする。気づいた課題に対し、個人またはグループで考えを出し合えるような機会を適切に設定する。
	社会との関わりから問いを見出し、自ら情報を集めて整理・分析した上で、それらをまとめて表現しようとしている。	4.4	4.5	インターンシップや社会人とのかかわりの中で感じたことを分析、整理しながら自らの言葉で表現し相手に伝えるような機会を設定する。
	協働しながら新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を身に付けている。	4.5	4.5	課題解決のために他者の考えに触れ、共感し話し合い、融合させながら前に進んでいくという協働の姿勢を身につける場を設定する。